

科目名	現代社会と政治	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	教養科目 2 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
科目概要	授業内容	日本の政治と一口に言っても、政治家と官僚の関係、内閣と与党の関係、衆議院と参議院の関係、無党派層の出現と投票行動の変化など、さまざまな論点があります。講義では、日本の政治に関するこれまでの研究を参照しつつ、問題点を考えていきます。社会科学をはじめて学ぶ学生にも理解できるよう、できるだけ分かりやすい講義を心がけます。
	到達目標	よくテレビなどで「もっと分かりやすい政治をしてほしい」と言う人を見かけます。しかし米国のリンデブロムは著書で、民主制では政治家の数が多く、この複雑性は特定の支配者に責任を負わせることを困難にすると指摘しています。彼によれば、民主的な社会では政治はそもそも分かりにくいものようです。現代の政治は複雑であることを理解した上で、粘り強く考えていけるようになるのが、講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 政策による選挙は可能か?① (3) 政策による選挙は可能か?② (4) 政党と無党派層 (5) 日本の選挙制度① (6) 日本の選挙制度② (7) 政党の理論① (8) 政党の理論② (9) 日本の政党① (10) 日本の政党② (11) マスコミと政治① (12) マスコミと政治② (13) 小さな政府、大きな政府① (14) 小さな政府、大きな政府② (15) 結論 (試験について)	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	講義中に指示する課題図書を読んでください。
使用教材・参考文献	【教】堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識』一藝社、2004年 【参】北山俊哉、真淵勝、久米郁男『はじめて出会う政治学』有斐閣、2003年 伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め』有斐閣、1996年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	本講義は、共通教育科目における「読書の必修化」の対象科目です。講義の受講に加え、課題図書の読了が単位取得の条件になります。詳細については、講義中に適宜指示します。 なお、講義中に私語をする学生の受講は認めていません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	